

## 2025年12月期 決算短信(日本基準)(連結)

2026年2月13日

上場会社名 ガーラ

上場取引所 東

コード番号 4777 URL <https://www.gala.biz/>

代表者 (役職名) 代表取締役グループCEO

(氏名) キム ヒヨンス

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO

(氏名) 小笠原 一郎

TEL 03-6822-6669

定時株主総会開催予定日 2026年3月28日

有価証券報告書提出予定日 2026年3月30日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年12月期の連結業績(2025年1月1日~2025年12月31日)

## (1) 連結経営成績

( %表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期	2,589	10.1	221		252		532	
2024年12月期	2,350		447		358		907	

(注) 包括利益 2025年12月期 810百万円 ( %) 2024年12月期 750百万円 ( %)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年12月期	18.99		75.3	6.3	8.6
2024年12月期	33.70		70.7	9.3	19.0

(参考) 持分法投資損益 2025年12月期 百万円 2024年12月期 百万円

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期	3,639	1,019	12.2	15.89
2024年12月期	4,366	1,802	22.2	34.55

(参考) 自己資本 2025年12月期 445百万円 2024年12月期 968百万円

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年12月期	86	117	125	448
2024年12月期	298	1,687	1,576	517

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計) 百万円	配当性向 (連結) %	純資産 配当率 (連結) %
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
2024年12月期		0.00		0.00	0.00			
2025年12月期		0.00		0.00	0.00			
2026年12月期(予想)		0.00		0.00	0.00			

## 3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日~2026年12月31日)

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が非常に難しく、HTML5ゲーム事業における開発が予定どおりに進まない可能性や課金収入の予測も極めて困難であります。さらに、新規事業であるクラウド関連事業、ツアーハウスリゾート事業、Meta Campus事業及びVFX事業については、当該事業を取り巻く環境の変化等により損益が大きく変動する可能性が高く、適正な業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えていただいております。

注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年12月期	28,024,900 株	2024年12月期	28,024,900 株
期末自己株式数	株	2024年12月期	株
期中平均株式数	28,024,900 株	2024年12月期	26,940,898 株

2025年12月期

28,024,900 株

2024年12月期

28,024,900 株

2025年12月期

株

2024年12月期

株

2025年12月期

28,024,900 株

2024年12月期

26,940,898 株

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料については、決算発表後に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	5
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 連結貸借対照表 .....	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	8
連結損益計算書 .....	8
連結包括利益計算書 .....	9
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	14
(継続企業の前提に関する注記) .....	14
(会計方針の変更に関する注記) .....	14
(セグメント情報等の注記) .....	14
(1株当たり情報の注記) .....	17
(重要な後発事象の注記) .....	17

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国経済は、資源価格の高騰、不安定な為替変動等、先行きの不透明な状況が続く中、雇用情勢・所得環境の改善を背景に個人消費が堅調に推移し、景気は緩やかに回復しつつあります。このような状況の中、当社グループはボーダーレスで革新的なサービスを提供し世界中の人々を楽しませることを目指し、オンラインゲーム事業、スマートフォンアプリ事業、HTML5ゲーム事業、Meta Campus事業、ツリーハウスリゾート事業及びVFX事業を進めてまいりました。

当社グループの当連結会計年度における経営成績の概況は、連結売上高2,589,328千円となりました。

これは、主にHTML5ゲーム「Flyff Universe（フリフユニバース）」の売上高によるものであります。また、進行基準に基づく受注残の売上実現によりROAD101 Co., Ltd.の売上高が451,417千円と前期に比し増加しました。

売上原価は、1,054,842千円となりました。これは、主にHTML5ゲーム「Flyff Universe（フリフユニバース）」に係る支払ロイヤルティ及びROAD101 Co., Ltd.の売上高増加に伴う売上原価の発生です。

販売費及び一般管理費は、1,756,216千円となりました。主な内訳は、役員報酬201,638千円、給与手当273,935千円、広告宣伝費245,836千円、研究開発費174,404千円及び支払手数料239,075千円であります。

また、営業外損益項目、特別損益項目として主に、受取利息22,297千円、受取保険金10,000千円、受取出向料12,040千円を営業外収益として、支払利息38,136千円、為替差損21,865千円、支払手数料11,691千円を営業外費用として計上し、固定資産売却益8,221千円を特別利益、減損損失529,070千円を特別損失として計上いたしました。

これらの結果、営業損失221,730千円、経常損失252,959千円、親会社株主に帰属する当期純損失532,297千円となりました。

セグメントごとの経営成績の概況は、次のとおりであります。

#### (イ) 日本

日本セグメントにおいては、現在、ゲームのパブリッシングは行っておらず、㈱ガーラが本社管理機能を担うとともに、「Shoport」と称するローカライズ・プラットフォーム事業を展開しております。同事業を通じて、「ROOMPACKER」をはじめとする韓国製品の日本国内での販売支援を行っております。

また、沖縄県名護市において連結子会社である㈱ツリーフルが運営するツリーハウスリゾート事業は、ツリーハウス単体、またはツリーハウスと地上型建築物であるエアロハウスを組み合わせた宿泊施設を提供するリゾート事業です。㈱ツリーフルは、2021年7月に旅館業法に基づく旅館業営業許可を取得し、同年8月に、日本で初めて有料宿泊を提供するツリーハウスリゾートとして開業いたしました。

当連結会計年度においては、2025年7月に日本で大規模地震が発生すると風評等の影響もあり、当該ツリーハウス事業における稼働率が当初の想定を下回る結果となりました。このため、当該事業における投下資本の将来回収可能性に関する不確実性が高まったと判断し、減損損失を計上しております。

ツリーハウスリゾートのコンセプトは、「サステイナブル（持続可能な）リゾート」であり、化石燃料を使用せず、代わりに電気を使用し、使用量よりも多くの太陽光発電により持続可能な社会を構築することを目指しております。当社グループは、ツリーハウスビジネスを日本のみならず海外にも普及させ、森林ビジネスの価値を生み出すことにより海外における森林破壊を食い止めていきたいと考えております。ツリーハウスリゾート事業の海外展開のファーストステップとして㈱ツリーフルは、2023年11月において、カンボジアにTREEFUL (CAMBODIA) Co., Ltd.を設立いたしました。TREEFUL (CAMBODIA) Co., Ltd.は、持続可能な高級リゾートホテルとして、ツリーハウスを通じて安定した収益を上げ、森と人間社会の共存の道を目指しております。

費用面では、売上原価8,013千円、販売費及び一般管理費672,016千円を計上いたしました。販売費及び一般管理費の主な内訳は、役員報酬が112,009千円、給与手当78,502千円であります。なお特別損失項目ではございますが、ツリーフルの事業について投下資本の回収可能性が2025年の稼働実績を考慮して不確実性が高まったものと判断し減損損失438,017千円を計上いたしました。

これらの結果、日本セグメントにおける売上高は194,452千円（内部取引を含む）となり、セグメント損失が485,577千円となりました。

#### (ロ) 韓国

韓国セグメントでは、2022年5月にサービス提供を開始したHTML5ゲームの売上高が1,066,835千円となりました。HTML5ゲーム「Flyff Universe（フリフユニバース）」については、サービス提供エリアの拡大を目指し、Gala Lab Corp.は、2024年12月に中国のゲームパブリッシング専門会社RUIWO TECHNOLOGYと中国地域におけるパブリッシング契約を締結し、2025年10月21日に中国政府より正式な配信認可（版号）を取得しました。現在は同地域におけるリリースに向け、具体的な準備を進めている段階にあります。HTML5ゲームは、ダウンロード不要でPC及びスマートフォン等、様々なデバイスからプレイが可能な接近性が高いゲームであります。Gala Lab Corp.は、2023年7月にBPMG Co., Ltd.及びWemade Connect Co., Ltd.との間でHTML5ゲーム「Flyff Universe（フリフユニバース）」のHTML5ゲームの要素にブロックチェーン技術によるPlay To Earn (P2E)（※1）要素を組み合わせたNFTゲーム/ブロックチェーンゲーム「Flyff Universe（フリフユニバース）」について、パブリッシング及びゲー

ム事業に関する戦略的提携契約を締結いたしました。現在、リリースに向けて準備を進めておりますが、「Rappelz Universe（ラペルズユニバース）」と同様の理由によりNFTゲーム/ブロックチェーンゲーム「Flyff Universe（フリフユニバース）」について、現在のところサービス開始日が未定となっております。

また、Gala Lab Corp.は、現在、Wemade Play Co., Ltd.が開発し、韓国において大ヒットを記録したモバイルゲーム「AniPang（アニパン）」のIPを活用したHTML5ゲームの開発を進めており、著名IPライセンスの成功を背景に、Ragnarok（ラグナロク）の共同開発へと事業を拡大しました。

今後も、著名なゲームIPと当社グループのHTML5ゲーム開発力を融合させたHTML5ゲームの開発に継続的に注力していく予定です。

続いて、スマートフォンアプリ事業では、売上高339,216千円となりました。現在、Gala Lab Corp.がスマートフォンゲームアプリ「Flyff Legacy（フリフレガシー）」を提供しており、また、連結子会社Gala Mix Inc.が歩数計アプリ「winwalk（ウィンウォーク）」、スマートフォンアプリ「winQuiz（ウインクイズ）」及びスマートフォンアプリ「Poll Cash（ポールキャッシュ）」を提供しております。

オンラインゲーム事業では、売上高が558,286千円となりました。Gala Lab Corp.の主力ゲーム「Flyff Online（フリフオンライン）」及び「Rappelz Online（ラペルズオンライン）」について、サービス提供を行っております。現在、ライセンス展開及びチャネリング（※2）展開を進めており、Gala Lab Corp.は、2024年10月に「Flyff Online（フリフオンライン）」について中国のゲーム会社、BEST KIRIN GLOBALと台湾、香港及びマカオ地域におけるライセンス契約を締結、2025年11月20日付でパブリッシング契約を締結いたしました。引き続きサービス提供地域の拡大に取り組んでまいります。

さらに、当社グループは、収益貢献へのもう一つの施策として、Gala Lab Corp.、韓国における大手電気通信事業会社LG Uplus Corp.及び韓国最大規模のデジタルIT企業であるMegazone Corporationとメタバース（※3）キャンパスプラットフォーム「UVERSE（ユーバース）」事業（以下、「Meta Campus事業」という。）を進めております。Meta Campus事業は、メタバースプラットフォームによる仮想キャンパスを開発・構築し、大学等の教育機関に生徒のコミュニティ空間や大学入試説明会等のイベントの場としてメタバースプラットフォームを提供していく事業であります。業務の役割分担は、Gala Lab Corp.がメタバースプラットフォームの開発、LG Uplus Corp.が学校誘致及びマーケティング、Megazone Corporationがクラウド等のインフラ提供を担当いたします。現在、複数の有名大学にサービスを提供しておりますが、当期の受注案件は少なかつたためMeta Campus事業では、売上高が30,174千円となりました。

また、連結子会社ROAD101 Co., Ltd.が行うVFX事業の売上高は、343,052千円となりました。

VFXとは、視覚効果を意味するvisual effectsの略で、映画やテレビドラマなどの映像作品において、現実には見ることのできない画面効果を実現するための技術のことをいいます。VFX事業は、VFX技術を用いた映画・CMコンテンツ等の制作事業であります。2025年9月末時点で人員削減を伴うリストラクチャリングを遂行したことから、ROAD101 Co., Ltd.が保有する固定資産については減損損失を計上しております。

費用面では、売上原価1,072,810千円、販売費及び一般管理費1,178,262千円を計上いたしました。販売費及び一般管理費の主な内訳は、役員報酬89,628千円、給与手当190,380千円及び支払手数料241,901千円、研究開発費211,012千円であります。支払手数料は、主にゲーム開発に係るアウトソーシング費用であります。

これらの結果、韓国セグメントの売上高は2,497,995千円（内部取引を含む）となり、セグメント利益が246,923千円となりました。

- （※1）Play To Earn（P2E）とは、ブロックチェーンゲーム内で得た収入やポイントを暗号資産に変えて取引所等で売買が可能であり、このゲームで遊んで収入が得られることが「Play To Earn」（P2E）と呼ばれております。
- （※2）チャネリングとは、オンラインゲーム等に関して、他社のゲームポータルサイトにてプレイできるようになるサービスをいいます。
- （※3）メタバース（Metaverse）は、超を意味するメタ（meta）と宇宙を意味するユニバース（universe）から作られた合成語で、多人数が参加可能で、参加者がその中で自由に行動できるインターネット上に構築された多人数参加型の3次元仮想空間です。利用者はアバターと呼ばれる自分の分身を介して仮想空間に入ることによってその世界の探索、他の利用者とのコミュニケーションを図ることができます。また、ユーザーが独自のゲームを作成し、他のユーザーにプレイさせて収益化することやユーザーがゲーム内のアイテム等をNFTとして他のユーザーと暗号資産により売買することができる仕組みを構築できます。

事業部門別の売上高を示すと、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)		当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
オンラインゲーム事業	413,856	17.6	558,286	21.6
スマートフォンアプリ事業	313,782	13.4	339,216	13.1
HTML5ゲーム事業	1,170,177	49.8	1,066,835	41.2
Meta Campus事業	243,495	10.4	30,174	1.2
VFX事業	112,317	4.8	343,052	13.3
その他事業	97,279	4.1	251,762	9.7
合計	2,350,908	100.0	2,589,328	100.0

(注) 事業部門別売上高内訳におきましては、記載金額の千円未満を切り捨てて表示しております。

## (2) 当期の財政状態の概況

### (イ) 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて19.2%減少し、1,243,270千円となりました。これは主に短期貸付金が175,000千円、その他流動資産が142,973千円減少したことによります。その他流動資産の減少は、主に未収消費税が減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて15.2%減少し、2,396,173千円となりました。これは主に投資有価証券が217,756千円増加した一方で、有形固定資産が523,294千円、無形固定資産が41,609千円、繰延税金資産が34,978千円減少したことによります。有形固定資産、無形固定資産の減少は、主に減損損失を計上したことによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて16.6%減少し、3,639,444千円となりました。

### (ロ) 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて0.9%増加し、2,013,416千円となりました。これは主に前受収益が95,183千円減少した一方で、短期借入金が128,884千円増加したことによります。短期借入金の増加は、主に物件取得に係る借入によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6.6%増加し、606,221千円となりました。これは主に長期前受収益が45,176千円増加したことによります。長期前受収益の増加は、主に新規ライセンスフィーの計上によるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ2.2%増加し、2,619,638千円となりました。

### (ハ) 純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べて43.4%減少し、1,019,806千円となりました。これは主に利益剰余金が532,297千円、非支配株主持分が259,883千円減少したことによります。利益剰余金の減少は、親会社株主に帰属する当期純損失の計上、非支配株主持分の減少は、非支配株主に帰属する当期純損失の計上によるものであります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、448,211千円となりました。

### (イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、86,206千円の資金使用（前期は298,865千円の資金使用）となりました。主な内訳は、減損損失529,070千円、減価償却費140,281千円、未収消費税の減少91,744千円の収入要因に対して、税金等調整前当期純損失780,468千円、前受収益の減少96,943千円の支出要因によるものであります。

### (ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、117,003千円の資金使用（前期は1,687,749千円の資金使用）となりました。主な内訳は、短期貸付金の減少175,000千円の収入要因、投資有価証券の取得による支出210,000千円、有形固定資産の取得による支出86,941千円の支出要因によるものであります。

### (ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、125,500千円の資金獲得（前期は1,576,628千円の資金獲得）となりました。主な内訳は、短期借入金の増加116,984千円の収入要因によるものであります。

#### （4）継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度及び当連結会計年度において営業損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上いたしました。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していません。

損失計上の主な要因は、以下の通りであります。前連結会計年度においては、事業持株会社としての管理費用の発生に加え、2023年10月に連結子会社化したROAD101 Co., Ltd. のVFX事業が収益基盤の確立途上であったこと、また株式会社ツリーフルにおける宿泊施設拡大に伴う先行投資が発生したことによるものです。さらに、決算訂正関連費用の計上やのれんの減損損失を計上したことも影響いたしました。当連結会計年度においては、ROAD101 Co., Ltd. において人員削減を伴う構造改革を実施したことに伴う固定資産の減損損失（90,426千円）、および株式会社ツリーフルにおける沖縄事業の回収可能性を検討した結果による減損損失（438,017千円）の計上、Treeful Cambodiaにおける先行費用が発生したこと等によるものであります。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を実施しております。ROAD101 Co., Ltd. については、既に固定資産の減損処理を完了し、人員削減等を通じて損失拡大を最小限に留める体制を構築いたしました。また、株式会社ツリーフルについても、資産の減損処理を実施した上で、経営資源の最適化の観点から連結除外を含めた協議を進めております。なお、昨年度に掲げていた宿泊施設拡大計画については、市場環境および収益性の再評価を踏まえ、方針を見直したものです。さらに、翌連結会計年度においても、費用管理の強化、事業ポートフォリオの見直し、ならびに構造改革の効果最大化に向けた人員配置や運営体制の最適化を継続して実施する予定です。

一方で、2022年5月にサービスを開始したHTML5ゲーム「Flyff Universe（フリフユニバース）」の売上高は堅調に推移しており、安定的な収益基盤として寄与しております。また、当連結会計年度末における現金及び預金は744,181千円を確保しており、手元資金は前期末より減少しているものの、計画に沿った投資・構造改革費用の支出によるものであり、今後は費用減少が見込まれることから、当面1年間の資金繰りに重大な懸念はないと判断しております。

以上の結果、継続的な事業運営に向けた資金は十分に確保されており、対応策の進捗を踏まえると継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

なお、上記事象に関連する減損損失等の影響は、当連結財務諸表に適切に反映しております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは日本基準により連結財務諸表を作成しております。なお、国際会計基準（IFRS）の適用につきましては、国内外の諸情勢を踏まえ、対応を検討していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	807,059	744,181
売掛金	242,770	331,594
棚卸資産	4,267	4,379
未収入金	32,499	76,476
前払費用	44,180	8,516
短期貸付金	175,000	—
暗号資産	47,778	35,059
その他	187,188	44,214
貸倒引当金	△1,098	△1,152
流動資産合計	1,539,645	1,243,270
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,304,874	944,720
減価償却累計額	△44,234	△68,230
建物及び構築物（純額）	1,260,639	876,490
機械装置及び運搬具	241,160	—
減価償却累計額	△177,397	—
機械装置及び運搬具（純額）	63,763	—
工具、器具及び備品	201,306	29,796
減価償却累計額	△146,384	△18,310
工具、器具及び備品（純額）	54,922	11,486
土地	732,316	727,686
建設仮勘定	27,316	—
有形固定資産合計	2,138,958	1,615,663
無形固定資産	42,201	591
投資その他の資産		
投資有価証券	243	218,000
敷金及び保証金	25,506	9,160
長期前払費用	217,872	185,899
繰延税金資産	401,686	366,708
その他	85	149
投資その他の資産合計	645,394	779,918
固定資産合計	2,826,554	2,396,173
資産合計	4,366,200	3,639,444

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,378	93,250
短期借入金	1,229,266	1,358,150
1年内返済予定の長期借入金	19,205	29,669
未払金	198,282	193,010
未払費用	54,430	34,691
前受金	178,511	114,049
前受収益	99,000	3,816
未払法人税等	17,822	9,911
リワード引当金	36,011	47,195
賞与引当金	266	168
契約損失引当金	23,386	—
課徴金引当金	64,950	—
その他	70,404	129,503
流動負債合計	1,994,916	2,013,416
固定負債		
長期借入金	99,480	69,969
長期前受収益	212,907	258,083
繰延税金負債	4,820	—
退職給付に係る負債	249,940	259,420
その他	1,567	18,748
固定負債合計	568,715	606,221
負債合計	2,563,631	2,619,638
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,491,482	4,491,482
資本剰余金	2,868,426	2,868,426
利益剰余金	△6,044,132	△6,576,430
株主資本合計	1,315,776	783,478
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	167	—
為替換算調整勘定	△347,757	△338,170
その他の包括利益累計額合計	△347,589	△338,170
新株予約権	8	8
非支配株主持分	834,373	574,489
純資産合計	1,802,568	1,019,806
負債純資産合計	4,366,200	3,639,444

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
売上高	2,350,908	2,589,328
売上原価	942,234	1,054,842
売上総利益	1,408,674	1,534,485
販売費及び一般管理費	1,856,470	1,756,216
営業損失(△)	△447,796	△221,730
営業外収益		
受取利息	37,866	22,297
暗号資産売却益	9,173	—
暗号資産評価益	6,167	—
為替差益	39,899	—
受取出向料	12,040	12,040
受取保険料	—	10,000
その他	6,351	10,210
営業外収益合計	111,498	54,548
営業外費用		
支払利息	18,628	38,136
支払手数料	2,960	11,691
暗号資産評価損	—	12,677
為替差損	—	21,865
その他	202	1,405
営業外費用合計	21,791	85,777
経常損失(△)	△358,089	△252,959
特別利益		
固定資産売却益	5	8,221
投資有価証券売却益	—	401
新株予約権戻入益	24,198	—
特別利益合計	24,204	8,623
特別損失		
固定資産売却損	441	7,061
固定資産除却損	24,881	0
減損損失	401,098	529,070
課徴金引当金繰入額	64,950	—
上場契約違約金	20,000	—
特別損失合計	511,371	536,132
税金等調整前当期純損失(△)	△845,255	△780,468
法人税、住民税及び事業税	6,545	15,509
法人税等調整額	△117,244	26,397
法人税等合計	△110,699	41,907
当期純損失(△)	△734,556	△822,376
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	173,423	△290,079
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△907,980	△532,297

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
当期純損失(△)	△734,556	△822,376
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4	△167
為替換算調整勘定	△15,584	12,326
その他の包括利益合計	△15,589	12,159
包括利益	△750,146	△810,217
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△920,246	△522,878
非支配株主に係る包括利益	170,100	△287,339

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	4,213,860	2,857,838	△5,136,152	1,935,546
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）	277,621	277,621		555,243
親会社株主に帰属する当期純損失（△）			△907,980	△907,980
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△267,034		△267,034
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				—
当期変動額合計	277,621	10,587	△907,980	△619,770
当期末残高	4,491,482	2,868,426	△6,044,132	1,315,776

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	172	△335,496	△335,323	29,438	384,894	2,014,555
当期変動額						
新株の発行（新株予約権の行使）			—			555,243
親会社株主に帰属する当期純損失（△）			—			△907,980
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動			—			△267,034
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△4	△12,261	△12,266	△29,429	449,478	407,783
当期変動額合計	△4	△12,261	△12,266	△29,429	449,478	△211,987
当期末残高	167	△347,757	△347,589	8	834,373	1,802,568

当連結会計年度（自 2025年1月1日 至 2025年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	4,491,482	2,868,426	△6,044,132	1,315,776
当期変動額				
親会社株主に帰属する当期純損失（△）			△532,297	△532,297
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				—
当期変動額合計	—	—	△532,297	△532,297
当期末残高	4,491,482	2,868,426	△6,576,430	783,478

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利 益累計額合計			
当期首残高	167	△347,757	△347,589	8	834,373	1,802,568
当期変動額						
親会社株主に帰属する当期純損失（△）			—			△532,297
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△167	9,586	9,419	—	△259,883	△250,464
当期変動額合計	△167	9,586	9,419	—	△259,883	△782,762
当期末残高	—	△338,170	△338,170	8	574,489	1,019,806

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失（△）	△845,255	△780,468
減価償却費	108,585	140,281
減損損失	401,098	529,070
のれん償却額	53,131	—
貸倒引当金の増減額（△は減少）	267	43
リワード引当金の増減額（△は減少）	16,379	10,452
賞与引当金の増減額（△は減少）	△554	△98
契約損失引当金の増減額（△は減少）	24,036	△22,737
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	29,612	7,223
受取利息及び受取配当金	△37,866	△22,314
支払利息	18,628	38,137
暗号資産売却損益（△は益）	△9,173	—
暗号資産評価損益（△は益）	△6,167	12,677
投資有価証券売却損益（△は益）	—	△401
有形固定資産売却損益（△は益）	435	△1,159
有形固定資産除却損	24,881	0
新株予約権戻入益	△24,198	—
課徴金引当金繰入額	64,950	—
上場契約違約金	20,000	—
売上債権の増減額（△は増加）	15,793	△83,606
棚卸資産の増減額（△は増加）	△531	△111
未収消費税の増減額（△は増加）	△107,094	91,744
前払費用の増減額（△は増加）	△15,700	34,747
長期前払費用の増減額（△は増加）	△13,857	2,176
仕入債務の増減額（△は減少）	117	86,541
未払金の増減額（△は減少）	45,041	△2,213
前受金の増減額（△は減少）	117,046	△64,239
前受収益の増減額（△は減少）	△39,856	△96,943
長期前受収益の増減額（△は減少）	△43,828	41,722
その他	△109,240	74,984
小計	△313,319	△4,490
利息及び配当金の受取額	39,192	27,398
利息の支払額	△19,879	△37,400
法人税等の還付額	1,509	4,996
法人税等の支払額	△6,369	△11,760
課徴金の支払額	—	△64,950
営業活動によるキャッシュ・フロー	△298,865	△86,206
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△262,090	△10,183
定期預金の払戻による収入	416,207	—
有形固定資産の取得による支出	△1,708,841	△86,941
有形固定資産の売却による収入	558	8,224
無形固定資産の取得による支出	△2,319	—
投資有価証券の取得による支出	—	△210,000
投資有価証券の売却による収入	—	403
短期貸付金の増減額（△は増加）	△175,000	175,000
差入保証金の差入による支出	△85	△4,009
差入保証金の回収による収入	43,821	10,502
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,687,749	△117,003
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額（△は減少）	959,266	116,984
長期借入れによる収入	68,000	—
長期借入金の返済による支出	△16,117	△18,938
新株予約権の行使による株式の発行による収入	550,012	—

非支配株主からの払込みによる収入	15,467	27,455
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,576,628	125,500
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,348	8,627
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△415,334	△69,082
現金及び現金同等物の期首残高	932,628	517,293
現金及び現金同等物の期末残高	517,293	448,211

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日）、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 2022年10月28日）及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日）を当連結会計年度の期首から適用しています。これによる、連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、最高経営責任者（代表取締役）が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループはインターネット関連事業を主たる事業内容としており、国内、韓国の各地域を現地法人が、それぞれ担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱うサービスについて各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは、サービス体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」及び「韓国」の2つを報告セグメントとしております。各報告セグメントの主な事業は以下のとおりであります。

日本：スマートフォンアプリのパブリッシング及びライセンス事業、クラウド関連事業及びツリーハウスリゾート事業

韓国：オンラインゲームのパブリッシング、開発及びライセンス事業、スマートフォンアプリのパブリッシング、運営、開発及びライセンス事業、HTML5ゲームのパブリッシング及び開発事業、Meta Campusの開発事業並びにVFX事業

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの損益は、営業損益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前連結会計年度（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）

（単位：千円）

	日本	韓国	合計	調整額 (注1)	連結財務諸表計 上額 (注2)
売上高					
オンラインゲーム事業	—	413,856	413,856	—	413,856
スマートフォンアプリ事業	—	313,782	313,782	—	313,782
HTML5ゲーム事業	—	1,170,177	1,170,177	—	1,170,177
Meta Campus事業	—	243,495	243,495	—	243,495
VFX事業	—	112,317	112,317	—	112,317
その他事業	60,576	36,703	97,279	—	97,279
顧客との契約から生じる収益	60,576	2,290,332	2,350,908	—	2,350,908
外部顧客への売上高	60,576	2,290,332	2,350,908	—	2,350,908
セグメント間の内部売上高 又は振替高	33,997	19,530	53,528	△53,528	—
計	94,574	2,309,862	2,404,436	△53,528	2,350,908
セグメント利益又は損失 (△)	△620,859	227,930	△392,928	△54,867	△447,796
セグメント資産	2,883,930	2,524,906	5,408,837	△1,042,637	4,366,200
その他の項目					
減価償却費	34,715	73,870	108,585	—	108,585
のれんの償却額	—	—	—	53,131	53,131
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	1,621,973	89,187	1,711,160	—	1,711,160

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△54,867千円は、セグメント間取引消去△1,736千円及びのれんの償却額△53,131千円であります。

(2) セグメント資産の調整額△1,042,637千円は、セグメント間債権債務消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位:千円)

	日本	韓国	合計	調整額 (注1)	連結財務諸表計 上額 (注2)
売上高					
オンラインゲーム事業	—	558,286	558,286	—	558,286
スマートフォンアプリ事業	—	339,216	339,216	—	339,216
HTML5ゲーム事業	—	1,066,835	1,066,835	—	1,066,835
Meta Campus事業	—	30,174	30,174	—	30,174
VFX事業	—	343,052	343,052	—	343,052
その他事業	101,982	149,779	251,762	—	251,762
顧客との契約から生じる収益	101,982	2,487,345	2,589,328	—	2,589,328
外部顧客への売上高	101,982	2,487,345	2,589,328	—	2,589,328
セグメント間の内部売上高 又は振替高	92,469	10,650	103,119	△103,119	—
計	194,452	2,497,995	2,692,447	△103,119	2,589,328
セグメント利益又は損失 (△)	△485,577	246,923	△238,653	16,923	△221,730
セグメント資産	1,942,122	2,411,012	4,353,134	△713,690	3,639,444
その他の項目					
減価償却費	63,040	77,240	140,281	—	140,281
のれんの償却額	—	—	—	—	—
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	55,248	32,386	87,634	—	87,634

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失 (△) の調整額16,923千円は、セグメント間取引消去16,923千円であります。

(2) セグメント資産の調整額△713,690千円は、セグメント間債権債務消去であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

## （1株当たり情報の注記）

項目	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
1株当たり純資産額	34円55銭	15円89銭
1株当たり当期純損失（△）	△33円70銭	△18円99銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注）1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (2024年12月31日)	当連結会計年度末 (2025年12月31日)
純資産の部の合計額（千円）	1,802,568	1,019,806
純資産の部の合計額から控除する金額（千円）	834,382	574,498
（うち新株予約権（千円））	(8)	(8)
（うち非支配株主持分（千円））	(834,373)	(574,489)
普通株式に係る期末の純資産額（千円）	968,186	445,307
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数（株）	28,024,900	28,024,900

2. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
1株当たり当期純損失（△）		
親会社株主に帰属する当期純損失（△）（千円）	△907,980	△532,297
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失（△）（千円）	△907,980	△532,297
普通株式の期中平均株式数（株）	26,940,898	28,024,900

## （重要な後発事象の注記）

当社は、2026年2月6日開催の取締役会において、下記のとおり、2026年3月28日開催予定の第33回定時株主総会に、「資本金及び資本準備金の額の減少および剰余金の処分」を付議することを決議いたしました。

## 1. 減資の目的

現在生じております利益剰余金欠損額を補填し、財務体質の健全化を図ることを目的としております。

## 2. 資本金及び資本準備金の額の減少の内容

（1）減少する資本金の額 現在の資本金 4,491,482,577円のうち、4,391,482,577円を減少し、100,000,000円といたします。

（2）減少する資本準備金の額 現在の資本準備金 2,631,051,257円の全額を減少し、0円といたします。

（3）減少の方法 発行済株式総数の変更は行わず、減少する資本金及び資本準備金の全額をその他資本剰余金に振り替えることといたします。

## 3. 剰余金の処分の内容

（1）剰余金の処分の項目及び金額

① 減少する剰余金の項目及びその額      その他資本剰余金    7,411,424,089円  
（上記2. の手続により増加するその他資本剰余金 7,022,533,834円を含みます）

② 増加する剰余金の項目及びその額      繰越利益剰余金      7,411,424,089円

（2）剰余金の処分の日程    効力発生日：2026年3月31日（予定）

（3）振替後の繰越利益剰余金の額は△375,815,279円となります。

4. 減資の日程

（1）取締役会決議日：2026年2月6日

（2）債権者異議申述公告日：2026年2月27日（予定）

（3）債権者異議申述最終期日：2026年3月30日（予定）

（4）定時株主総会決議日：2026年3月28日（予定）

（5）効力発生日：2026年3月31日（予定）